香取遺産

Vol.74

「土井利勝植林指導地と橘堰、土井の新堤」
領民のために

▲橘堰、土井の新堤（右上）、土井利勝植林指導地（右下）

土井利勝は徳川家康・秀忠・家光三代に仕え、大老まで昇進した名藩主です。

出生は、家康に仕えた土井利昌の子として元亀４年（１５７３）に生まれたとされていますが、近年では、実父が家康、養父が利昌であるとの説が有力視されています。

利勝は、幼少から家康に仕え、天正７年（１５７９）徳川秀忠誕生とともに７歳で傅役（もりやく）となります。慶長５年（１６００）の関ヶ原の戦いでも秀忠に従い、慶長７年（１６０２）、28歳の若さで小見川藩主となり、その後、慶長15年（１６１０）に佐倉藩主、寛永10年（１６３３）には古河藩主となっています。

徳川三代の信頼が高かった利勝は、領国経営にも力を発揮し、植林の指導や堤防・堰を築いた成果は現代にまで続いています。

土井利勝植林指導地（市史跡昭和42年指定）

慶長年中、小見川藩主となった利勝が領民のために植林指導を行ったとされる勧業史跡です。当時の仁良村は小見川藩の領地で、山林は価値の低い薪炭用の雑木林だったことから、建築材として価値の高い針葉樹の植林を奨めたといわれています。

橘堰（市名勝昭和53年指定）

慶長10年（１６０５）、利勝32歳の時、田部村周辺の水田の水を確保するために橘堰を築いたとされています。現在では、ふれあい公園として風光明媚な憩いの場所となっています。

土井の新堤（市史跡昭和53年指定）

元和年中、領内の田部村、竹之内村の稲作の水害を防ぐため、領民を動員し、幅３間（５・４ｍ）長さ７００間（１・27㎞）の堤防を築いたとされ、堤防があったと言われる場所は現在、農道として使用されています。

問い合わせ
生涯学習課　☎(50)1224